

にしあさけ



四日市市立西朝明中学校

平成30年度

第4号

平成30年9月3日(月)

<全国学力・学習状況調査の結果について>

4月17日に実施された平成30年度全国学力・学習状況調査の結果が7月31日に発表されました。本校の学力や生徒の状況について分析した結果をお知らせします。国語・数学ともAの問題は、主として知識を問う問題、Bの問題は、主として活用を問う問題です。また、理科は3年ぶりの実施となりました。なお、3年生の皆さんには、9月6日(木)に個人票を返却しますので、自分の結果について振り返ってみてください。

【学力の状況】

全5教科(国語A・B、数学A・B、理科)中、正答率が全国平均とほぼ同じとなったのが数学Aと理科でした。国語Aは全国平均よりやや低く、国語Bと数学Bはさらに低い値となりました。それぞれの教科についての分析結果は次の通りです。



国語A 領域別では、「話すこと・聞くこと」と「読むこと」が全国平均を上回り、「書くこと」と「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が下回りました。普段の授業でも、書く課題に対して苦手意識を持っている生徒が多くみられるので、文章表現で答える機会を多く取り入れることが必要と言えます。

国語B B問題においても書くことの苦手さが出ました。加えて、問題の文章をじっくりと読まずに問題を解くことをあきらめる生徒がいました。課題に対して粘り強く最後まで頑張る力をつける必要があります。

数学A 基礎となる計算はよくできていましたが、「図形」と「資料の活用」の分野での知識や技能を問う問題ができていませんでした。毎時間の授業の中で、復習をしっかりと知識・技能の習得を高めることが大切と言えます。

数学B B問題においては、問題の文章を論理的に読み解く力や数学的な思考力が弱いことがわかりました。国語B問題と同じように、問題にじっくりと向き合い、粘り強く解決しようとする態度や技能を育てることが求められます。

理科 教科書に出ている内容の知識や実験についてはよく理解できていました。一方で、長文の問題に対して、問題文の理解が難しく何を答えるべきかが分からなくなり、回答を途中であきらめてしまう生徒が見られました。思考や推論を重ねて根気よく課題に取り組む力や論述式の課題を取り入れた授業をしていくことで力をつけていく必要があります。



<全体として>

5科目の分析を通して、基本的な内容については概ね理解できていますが、初めて出会う課題や長文で表現された問題に対して、じっくりと丁寧に問題を読み解き、思考を積み重ねて粘り強く課題に向き合い、より良い解決方法を導き出すことが苦手な生徒が多いことがわかってきました。今回の調査対象となった国語・数学・理科はもとよりすべての教科授業において、課題をしっかりと把握し粘り強く解決していく力をつけていけるような授業づくりを進めていくことが必要と思われます。この分析結果をもとに、校内での研修を深め学力の向上に向けて取り組んでいきたいと思っております。

【生徒の状況】

生徒質問紙による本校の生徒(3年生)の状況については、概ね以下のような結果となりました。

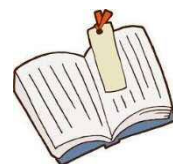
- ① 将来の夢や目標をしっかりと持っている生徒が多く、自己肯定感があり周囲に認められていると感じている生徒の割合が高くなっていました。また、規範意識があり、「いじめはどんな理由があってもいけない」と答えた生徒の割合も高くなっています。一方で、「人の役に立つ人間になりたい」や「ボランティア活動に参加したことがある」と答えた生徒の割合が低く、消極的な一面がみられました。



- ② 朝食を毎日食べている生徒の割合は、約90%でした。起床・就寝時刻についても「どちらかといえば」を含めると、80~90%の生徒が「同じくらいの時刻にしている」と回答しており、概ね規則正しい生活ができていることが伺えます。

- ③ 家庭で計画的に学習をしていると答えた生徒は約60%でしたが、はっきりと「している」と回答した生徒は12%にとどまりました。一方で、学校の宿題は90%以上の生徒が「している」となっており、やらなければならないことは、きちんとやろうとする姿勢が見られました。ただし、塾なども含めた平日の学習時間は、3時間以上8%、2~3時間25%に対して、2時間以内と答えた生徒が67%あり、中学3年生として学習量に少々不安を感じます。

- ④ 平日に30分以上読書をしている生徒の割合は21%ほどで、全国の数値に比べて10ポイント近く低い値となっています。学校での朝の読書の時間には一生懸命に読書をしている姿を見ることができますが、家庭でも読書に親しんでもらいたいところです。



- ⑤ 放課後や休日の過ごし方の中で、「家でテレビ等を観たりゲームやインターネットをしたりしている」と答えた生徒の割合は、全国平均と同程度でした。

<全体として>

本校の生徒は、概ね大人しくまじめであると言えます。安定した家庭生活を送っている生徒が多く、言われたことは一生懸命に取り組もうとする姿勢が感じられました。一方で、自ら考えて行動することや社会に貢献しようとする活動に対しての弱さが見られます。思いやりの心をもって、自主的・自発的に活動できる生徒を育てていく取り組みを進めることが大切と感じました。家庭での学習習慣や読書については、具体的な取り組みの方法を紹介したり、啓発活動を推進したりすることで少しでも学習時間や読書時間が増えることを期待したいと思います。

【今後の取り組み】

この調査結果を受け、学校全体としてさらなる授業改善と家庭学習・読書習慣の定着を目指します。授業では、だれもが興味・関心を持って主体的に学習に取り組めるように、また個々の学力に応じた支援を行うことで基礎基本の定着を図り、粘り強く学習に取り組む姿勢を育てることができるよう、継続的に改善を進めていきます。さらに、自主学習ノートをはじめとした家庭学習の充実を図るとともに、家庭での読書習慣の確立についても取り組みを進めていきたいと思えます。問題を読み解く力や文章表現をする力は、読書



によって培われる部分が多いと思われるので、ご家庭でも読書をする機会を少しでも増やしていただきますようご協力をお願いします。また、学校生活においては、生徒会を中心として自主的に参加するボランティア活動・地域貢献活動を実施するなど、生徒の意欲を湧き立たせることができる取り組みを進めていく予定です。さらに、学年・学級活動や委員会活動・部活動においても、生徒自らが考え行動できる力をつけていきたいと思えます。

本校の生徒の良い点は今以上に伸ばし、弱いところは少しでも克服できるよう、全教職員で引き続き努力をしております。保護者の皆様にも、学校の取り組みをご理解いただき、温かく生徒を見守っていただきますようご協力をお願いいたします。